

『不透明性への権利』

ポーリン・ボードリ / レナーテ・ロレンツ

2016年9月10日(土)～10月13日(木)

*作家を囲んでのオープニングレセプション 9月10日(土)18:00-20:00

キュレーション: アサクサ

アサクサは、ポーリン・ボードリ / レナーテ・ロレンツ による日本での初個展『不透明性への権利』を開催します。2007年の結成以来、自身が「クイア考古学」とよぶ方法論にもとづき、セクシャル・マイノリティーの歴史を写真、音楽スコア、映画や文学テキストから掘り起こし、社会的規範に抗してコード化してきた過去の再解釈を試みてきました。周縁化した状況において、苛烈に——華やかに——生きた人々が衣装やプロップをもとに再演され、映像とその構成物による空間インスタレーションとなって、記憶を更新する現在の時間軸に接続しています。

本展の中心となる《Opaque》(2014年)は、市民プールの跡地を舞台に撮影されました。ある地下組織のメンバーを名乗る2人の人物が薄暗い廃墟に現れ、カーテンの背後に立って、自らの匿名性を強調しています。性的アイデンティティーが織り込まれたカーテン——軍事用のカモフラージュにみまてたピンクのシマウマ模様(注:ピンク・ゼブラは黒人と白人のレスビアンカップルを表す隠語)や、きらびやかに輝くスパンコール——が、やわらかい皮膜のように、内と外を隔てる結界を表しています。そして、聴衆が誰一人いない静けさのなか、敵の視界をさえぎる青や赤の煙幕がたかれ、詩人ジャン・ジュネの短いノートが、政治デモにおける声明文のように高らかに読み上げられます。

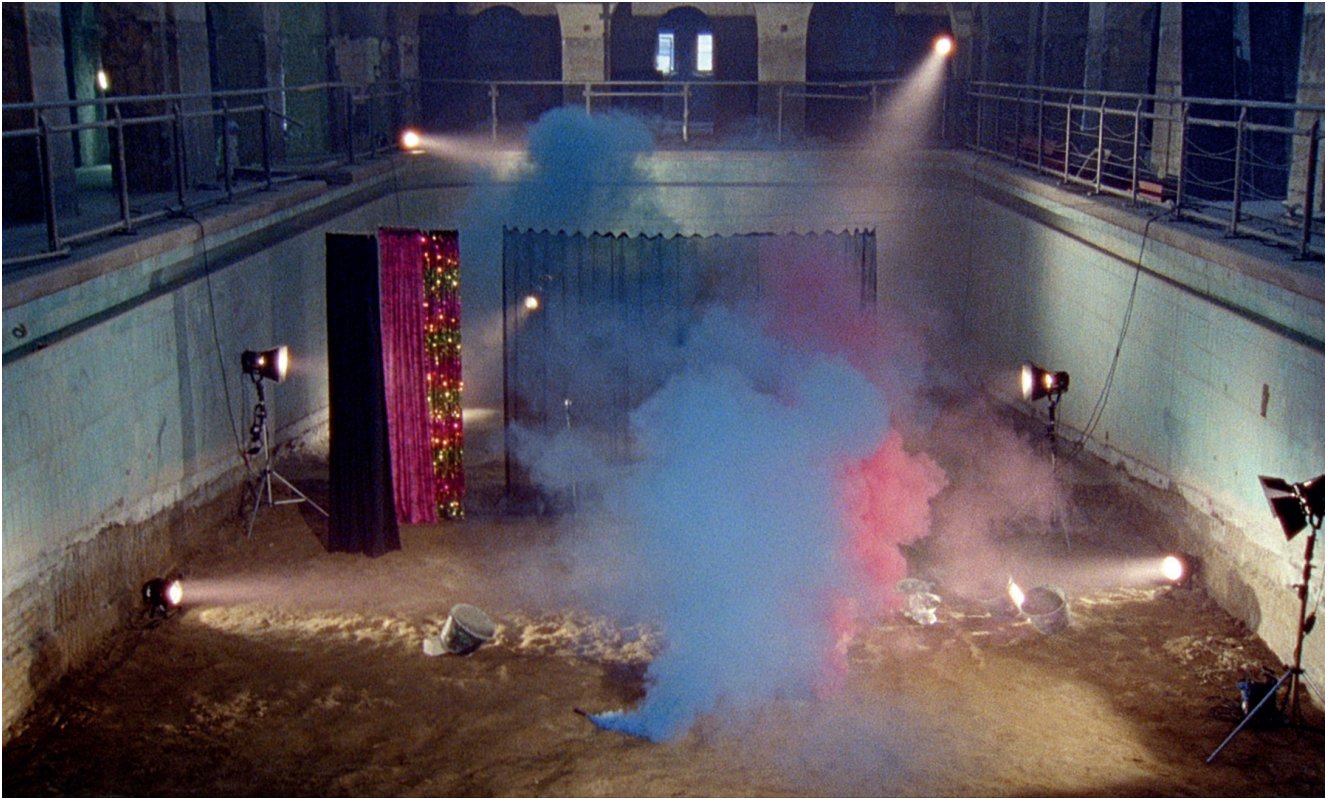
ここで引用されるのは、ジュネが1970年に記した『公然たる敵』です。ブラックパンサーやパレスチナ解放のために共闘し、カルチエ・ラタンや全学連にも呼応した詩人が書いたこのテキストには、愛と憎しみ、性と暴力、モラルと背徳とが分かちがたく交差し、見えない敵への苛立ちと渴望が語られています。自らの欲望を自らの声で公的に表明することは、LGBT運動のもっとも重要な手段として考えられてきましたが、本作においてテキストの朗読は録音され、トランスジェンダーの男女二人の口パクと身振りによる演技が続きます。この錯綜した言語実践のうちにナラティブの構造が組み替えられ、架空の敵は自他の境をこえた特権的な対象となって現れてます。

本展のタイトル『不透明性への権利』は、マルチニークの詩人 エドゥアール・グリッサンの言葉です。西洋社会が推し進めた思考の透明性が、一方において言明しがたい文化領域を排除する知の暴力を生んだ反省にたち、多様な立場の人々が理解されないままであることができる権利を主張しました。このとき不透明性は、透明な情報の開示をもとめるメディア文化や、奇異のまなざしを前に自らの言葉を失う「他者」が、多様なものの特異性のうちに結びつくことができるための、心遣いとして要求されています。ジュネの声明文における見えない敵は、この不透明さのなかに求められているのかもしれませんが。

本展は次のような疑問を投げかけます。敵を見定めぬまま、共犯関係ばかりが拡大するときに、私たちはいまでのような壁の存在を思い描くことができるのでしょうか。個々人の関係性とその経験の多様性に分け入りながら、現実を単純化せず、いかなる対立の構築が可能なののでしょうか。抵抗の対象には実体があるのでしょうか。敵に身体はあるのでしょうか。

本展は、マールセル・アリ・ギャラリー(パリ)の協力により実現しました。

出展作品《Opaque》(2014年)は、2015年のベルリナーレ (Forum Expanded) にて公開され、クンストハレ・ヴィエナ、クンストハレ・チューリッヒおよびノッティンガム・コンテンポラリーにて上映されています。出演は、ウェルナー・ヒルシュとジーンジャー・ブルークス・タカハシ。



[上・下] ポーリン・ボードリ / レナーテ・ロレンツ 《Opaque》 2014年、映像インスタレーション、Super 16mm / HD, 10分.

J・Gは求める、たとえ見つからなくとも探しに行く、探し続けたい。私を情欲に駆りたさせる無防備な敵を。ふらついていて、身元もわからず、許容できない顔をした敵。空気のほんのひと吹きで打ち負かされそうな、すきあらば一目散に窓から逃げ出しそうな、もう十分に辱めを受けた奴隷。痛みつけられて目も見えず、耳も聞こえず、黙りこくった敵。腕もなく、脚もなく、腹もなく、心も、性器も頭もない、私の残忍さの痕跡をとどめ、怠惰のあまりもう一切のやる気を見せなくなった、つまりは完全な敵を。私は全うな敵を求める。極限までに、自発性の一切を尽くして私を憎み、主体的な意志を保ちながらも、私の姿さえ見るに叶わず打ち崩れる敵を。私とは決して和解することはない。友達はいらない。友達こそいらない。分裂した敵ではなく公然たる敵を。健全で瑕のない敵を。その色は？熱っぽい紫色をおびたチェリーみたいな新緑。彼の体格は？君と私の中間で、同じ人間らしく私と向き合ってもらいたい。友達などいらない。私は、あきらめの間際にくじけている敵を求める。そしてその人に私の持つすべてをぶつける。パンチにビンタに足蹴りも。飢えた狐に囓らせて、無理やりまずい料理を食べさせ、上院議会で座らせてやる。バッキンガム宮殿に招かれフィリップ王子を犯し、彼に犯され、ロンドンに一ヶ月住まわせて、私のような服を着せ、私の寝床につかせ、私の代理として生きてもらおう。私は公然たる敵を求める。

——ジャン・ジュネ、1970年

Translation by Asakusa. Source: Genet, Jean. The Declared Enemy: Text and Interviews. Edited by Albert Dichy and Translated by Jeff Fort. Stanford: Stanford University Press, 2003. Print. p1.

アーティスト:

ポーリン・ボードリ / レナーテ・ロレンツ (Pauline Boudry / Renate Lorenz) は、2007年に結成したアーティスト・デュオ。ベルリン在住。写真や文学テキストを中心にセクシャル・マイノリティの歴史を掘り起こし、周縁化した状況をよりどころに、社会的規範に抗して——華々しく——生きた人々の行為を再演する映像インスタレーションで知られる。時間をこえて投影される人物像を重ねあわせ、コード化された歴史の再解釈を試みている。

出展作品《Opaque》(2014年)は、2015年のベルリナーレ (Forum Expanded) にて公開され、クストハレ・ヴィエナ、クストハレ・チューリッヒおよびノッティンガム・コンテンポラリーにて上映された。出演は、ウェルナー・ヒルシュとジンジャー・ブルークス・タカハシ。

主な作品に、フェミニストの前衛作曲家 ポーリン・オリヴェロスによる1970年のスコアを基にした《To Valerie Solanas and Marilyn Monroe, In Recognition of their Desperation》(2013年)、同年『Patriarchal Poetry』と題したバーディッシャー・クストフェアアイン(バーデン)での個展にて公開された。2014年にはニューヨーク近代美術館(ニューヨーク)にて上演された。《Toxic》(2012年)は、オクウィ・エンヴェゾーが芸術監督を務めたパリのトリエンナーレ『Intense Proximity』のコミッション作品として、同展にて公開。《No Future, No Past》(2011年)は、同年ヴェネチア・ビエンナーレのスイス館オフサイト企画としてコミッション制作・発表した。

主な個展に、2015年『Two Video Works』(ファン・アベ美術館、アイントホーフエン); 『In Memoriam of Identity』(ノッティンガム・コンテンポラリー、ノッティンガム) 『Loving, Repeating』(クストハレ・ウィーン、ウィーン); 『Portrait of an Eye』(クストハレ・チューリッヒ、チューリッヒ); 『Patriarchal Poetry』(バーデン芸術協会、バーデン); 2013年『Aftershow』(CAPC、ポルドー); 2012年『Toxic Play in Two Acts』(サウス・ロンドン・ギャラリー); 2011年『Contagieux! Rapports contre la normalité』(ジュネーヴ現代アートセンター、ジュネーヴ)ほか。

主なカタログに、『I Want』(Sternberg Press、2016年)、『Aftershow』(Sternberg Press、2014年)、『Temporal Drag』(Hatje Cantz、2011年)がある。

本年9月より、マリア・リンド キュレーションによる開催される2016年光州ビエンナーレに参加予定。

www.boudry-lorenz.de

キュレーター:

アサクサ は、ギャラリーキュレーターが運営する、40平方メートルの一般住宅を改築したプロジェクト・スペース。美術研究とマーケットの動向を媒介し、共同キュレーションを推進する。2015年には、倉敷芸術科学大学川上幸之介研究室、ギャラリーエ・タダエス・ロバック、大和日英基金、青山 | 目黒と共同企画を実施。本年では、筑波大学 五十殿利治教授の協力により1920年代日本の前衛作家の足跡を辿るアーカイブ展、スカイザバスハウスの協力によるヨシュア・オコンの個展、岡山大学荒木勝博士(政治哲学)との共同キュレーションによるトマス・ヒルシュホルンとサンティエゴ・シエラの二人展を開催。ポーリン・ボードリ/レナーテ・ロレンツとの本展は、第6回目の展覧会となる。

展覧会情報

タイトル: 『不透明性への権利』

作家名: ポーリン・ボードリ / レナーテ・ロレンツ

会期: 2016年9月10日(土)~10月13日(木)

会場: アサクサ

住所: 東京都台東区西浅草1-6-16

開廊: 木曜日19:00-22:00、土・日曜日12:00 - 19:00

作家を囲んでのオープニングレセプション

2016年9月10日(土) 18:00~20:00

プレス連絡先: 山越紀子 (Noriko Yamakoshi)

info@asakusa-o.com

090-4673-2745